

外国語教育メディア学会（LET）関西支部中学高校授業研究部会・
京都教育大学英語の教え方研究会 主催
2010年度9月例会のご案内

日時： 2010年9月26日（日） 13：30～17：00

会場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： LET会員・英語の教え方研究会会員 無料
京都外国語大学英語教育研究会会員 300円
学生 200円
一般 500円

問い合わせ先（電子メールアドレス）： yuitsu@kyokyo-u.ac.jp 西本有逸（京都教育大学）
j_suzuki@kufs.ac.jp 鈴木寿一（京都外国語大学）

内容：

13：10～ 受付

13：30 開会（途中休憩あり）

「小中連携（2）：世界を表象で捉えない、heteroglossiaの世界」

西本有逸（京都教育大学）

小学校と中学校の連携を考えるうえでは両者の差異をしっかりとらえておく必要があります。中学校以上の英語教育は英語という外国語に関わる表象の操作と考えることができます。それでは、小学校英語活動の神髄・特質・醍醐味は何でしょうか。文部科学省は「コミュニケーション能力の素地」を謳っていますが、私たちはこの「素地」について深く考える必要があります。先日、参観した小学校4年生の授業で思い知らされたことがあります。児童は教室空間の中で世界を表象で捉えていないのではないか、コミュニケーションを楽しみながらもっと違う意識が芽生えているのではないか、このようなことを報告します。具体的にはバフチンのheteroglossia（さまざまな声）の世界そのものだったのです。

15：00

「中学校英語教育に託したい、このバトン」

黒田美也子（京都市立翔鸞小学校）

偶然参観に行った中学校の英語の授業が、小学校でよくしていたゲームと同じ形式で行われており大変驚きました。これまで小学校英語は遊びに近いゲーム感覚で行われているため、中学校の英語とは直結しにくいのではないかと感じていたからです。

参観した中学校は小中連携のカリキュラムを作成して行われていた学校でしたが、それ以外にも中学校で小学校英語のやり方を生かして授業を組み立てておられる学校をご紹介しながら、子どもたちの学びに生かされる方法を小中両者の視点に立って考えてみました。御参会いただきました皆様の例もお話いただき、活発な意見交流ができればと思っています。

16:30 閉会

会場までのアクセス：

京阪電車利用の場合

(1) 淀屋橋、天満橋、京橋からは、特急で丹波橋下車、普通電車に乗り換え、墨染駅下車（所要時間約40分）。徒歩約8分。

(2) 四条からは、普通電車で墨染駅下車（所要時間約15分）。徒歩約8分。

JR京都駅よりJR奈良線利用の場合

JR京都駅でJR奈良線に乗り換え、普通電車でJR藤森駅下車（乗車時間約8分）。徒歩約3分。

奈良方面より近鉄電車利用の場合

西大寺にて快速または快速急行に乗り換え、丹波橋下車。京阪本線普通電車に乗り換え、墨染駅下車（乗車時間約40分）。徒歩約8分。

お願い：最近、メールアドレスを変更される方が増えておりますため、案内をお送りしても100名分以上が戻って来ます。今後、メールアドレスを変更される場合は j_suzuki@kufs.ac.jp までお知らせください。

今後の予定：諸般の事情で日程・会場が変わる可能性もあります。

10月 例会 休会（10月23日にLET秋季大会が近畿大学にて開催されるため）

11月 例会 休会（西本が出張のため）

12月12日例会 京都教育大学

1月9日例会 ”

3月26・27日 第17回中学高校教員のための英語教育セミナー（キャンパスプラザ京都）